

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2022年6月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第40号

春まつりに新しい歴史を書きくわえよう

第10回東九条春まつりが無事終了しました。新型コロナウイルス感染症拡大により開催が危ぶまれる時期もありましたが、実行委員会に集まった多くの方々、多文化交流ネットワークセンター職員の尽力により、成功裏に終えることが出来ました。皆様のご協力に深く感謝します。新型コロナウイルス感染症のために一昨年は中止、昨年は7月に「季節外れの春まつり」の開催などコロナに翻弄された2年間でしたが、こうした状況下で開催できた事は、大きな意義を地域にもたらしたと考えています。一つは、今年の春まつりのキャッチコピーが「出会って、食べて、多文化体験」から「いまこそつながろう」へと変更されたことに表現されています。新型コロナウイルス感染症のために社会活動が自粛され、人間関係が断ち切られ、仕事が減らされ、弱い立場の人々へしわ寄せがいく事態が生まれています。この現状を少しでも変えたい、もう一度地域のつながりを作り出したい、しんどい方々へエールを送りたい。多くの方々が共感して集まっていたいただいたことこそ、開催の大きな意義であったと思います。

もう一つは、ステージでのトークショーがあげられます。今回は、東九条地域の資源でもある福祉施設の医療・介護職員の皆さんから、新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの実践が報告されました。コロナ感染症拡大という現実のなかですさまじい実践があった



こと、そしてコロナに立ち向かった人たちがいたこと、その報告に涙したのは私だけではないと思います。この実践報告は、東九条という地域の歴史に新しいページを記すことになりました。東九条は戦前から差別・貧困にさらされた歴史を有しています。そして差別・貧困の現実に対抗する多くの団体・個人が活動し、新しい文化・芸術

を生み出してきた歴史も有しています。こうした活動の歴史を埋もれさせることなく、継承していくことも春まつりの重要な課題です。だからこそコロナウイルスと対峙した医療・介護職員の皆さんの実践報告は、地域の新しい歴史として引き継がれるべきものです。東九条春まつりを通して地域に新しい歴史のページを書き加えていくこと。この意義をまつりに参加された全ての方々と共有したいと思います。

小林栄一（第10回東九条春まつり実行委員長）

第10回東九条春まつり開催日程と参加団体

第10回東九条春まつり展示

2022年4月18日（月）～28日（木）

第10回東九条春まつり

2022年4月23日（土）

会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター

＜出店＞イエスの小さき姉妹会、教員グループ、京都いたはし学園、京都コリアン生活センターエルファ、京都DARC、京都ふれあい工房、



コミュニティカフェほっこり、スウィング、たいち、地域福祉センター希望の家、バザールカフェ、ハルバン、ほっこりラジオ、南同胞生活相談総合センター、東九条空の下写真展、南エコまちステーション、ものづくりスペースみんななかま、RAWAと連帯する会、ワークス共同作業所

＜ステージ＞サムルのたまご（東九条マダン）、京都文芸同、真狩京都、トークショー

（京都コリアン生活センターエルファ、故郷の家・京都、東九条のぞみの園、陶化包括支援センター）、40才からのギター教室（日本自立生活センター）

＜展示＞登録団体…カラフル、京都コリアン生活センターエルファ、京都市陶化老人デイサービスセンター、京都DARC、スウィング、日本自



立生活センター、東九条耕す計画・ただいも、南
同胞生活相談総合センター、「やさしい日本語」
を広める会、RAWAと連帯する会、ワークス共
同作業所

凌風学区子育てステーション実行委員会…希望の
家カトリック保育園、東和保育園、法光院こども
園、松ノ木保育園、洛南保育園、希望の家児童館、

山王児童館、放課後等デイサービス暖太、凌風小中学校コリアみんぞく教室



参加者からの報告・感想

出店・展示

●鄭英姫（南同胞生活相談総合センター）

4月23日（土）久々の「東九条春まつり」に出店させて頂き誠にありがとうございました。今回、南同胞生活センターでは、ホッペ焼きとチヂミを販売しました。地域の方々の顔を思い浮かべながら「美味しくな～れ」と、心を込めて当日早朝からチヂミとホッペを焼きました。野菜が高騰した時期ではありましたが、ケチらず（笑）玉ねぎ、にら、人参をしっかり入れ焼きました。本来ならごま油で焼く香ばしいチヂミの香りを漂せながら熱い鉄板で焼きたてを召し上がって頂くのが出店の醍醐味ですが、今回はお預け。お昼の12時からパック詰めしたものをお持ち帰り販売。久々の出店だったのもあり皆さんに喜んで頂けるのか少し不安もあったのですが、徐々に皆さんから「ホッペって何？」「チヂミ2枚ちょうだい！」など会話のやり取りも増え、出店ならではの活気が出て来てとても安心しました。と同時に、コロナ禍ゆえにイベントをオンライン開催せざるを得なかった期間を経て、こうして少しずつ対面式で、お持ち帰り販売でも春まつりが開催されて本当に良かったと心の底から思いました。マスク越しではありましたが、皆さんとの交流はやはり、嬉しいし、楽しかったです。展示ブースでも今回はじめて展示させて頂



き、我々東九条に住む「在日コリアン」の団体の活動やその子どもたちが通う朝鮮学校について少しでも知って頂くよい機会になったのではないかと考えています。

これからも、互いを知り、地域で助けあい、共に暮らしていく者として、春まつりはじめ、色んな交流ができたと思います。本当にありがとうございました！！

●たいち（似顔絵師）

春まつりで似顔絵を描いていたたいちです。元通りとはいきませんが、ようやくにぎやかなお祭りが帰ってきた感じで、すごく明るい気持ちになりました。

今回は、僕が参加したいと言う前にサロンの方から「みんなたいちくんのこと待ってるから、似顔絵で参加してよ。」と声をかけていただきました。呼んでもらえるのはもちろんなんですが、恒例になっているということ、何よりみなさんに名前を覚えてもらっているということ自体がめちゃくちゃうれしくて、感動しました。当日には『たいちくんの似顔絵』という貼り紙まで作っていただいて、おかげさまで大盛況でした。



僕が東九条の春まつりに初めて参加したのは、今から4年前。当時は似顔絵ではなく、京都ダルクのメンバーとして駐輪場の整備や食器洗いなどのボランティアをしていました。第一印象は、規模は小さいけどすごく盛り上がっているなあということ。洗うお皿の量が物語っていました。その後、川掃除やゴミコ

ロリなどの活動を通してサロンの方、他の団体の方、地域の方と徐々に繋がりが広がっていったように思います。

僕は似顔絵を始めて2年程ですが、初期の段階で似顔絵を描く場所を提供してくださって本当に感謝しています。似顔絵は相手がいないと描くことができません。コロナの影響もあってどんどんイベントが減っていく中、心が折れずに似顔絵を続けていられたのは、本当にサロンのおかげです。僕にとってサロンはまさに希望の家でした。

今は大阪の似顔絵ショップに勤務して、ありがたいことにある程度稼げるようになりましたが、サロンでの繋がりを大事にすることは僕にとってひとつの恩返しのようなもので、これからもイベントには積極的に参加していきたいと思っています。

これからもよろしくお願いします。

●山口恵子（ほっこりラジオ）

ネットワークセンターの斜め向かいにある、コミュニティカフェほっこりでは、東九条地域で暮らす、働く、活躍する方々をゲストにお迎えして「ほっこりラジオ」という、番組をYouTubeで配信している。そのほっこりラジオが、4月23日に開催された第10回東九条春まつりで、食品や雑貨の出



店に混ざってブースを出した。コロナ禍で以前のように多くの方に来ていただけない中、遠くにいる人にも春まつりの様子を楽しんでもらいたいという思いと、折角の人が集う機会だから色んなお話が聞きたい！というラジオ魂から企画されたものだ。ほっこり店員山口恵子と、画面越しに台湾に留学中の浜辺ふう、そして常連のうらびょんが、建物の入口横でお客さんやステージ出演者、出店の店員さんを待ち構えた。開始時間になると、みるみるうちに敷地内が訪れる人の声で溢れていった。それはここ数年、感じる事が出来なかった音で、その懐かしい音風景に自然と顔が緩んでいく。私たちの姿を見て手を振って話しかけ、そのまま快く出演してくださる方や、販売していた商品の紹介から普段の活動に関する熱い思いを語って下さった方もいた。祭りの高揚感と、久しぶりに見る顔ぶれ、そして人が集えることへの喜びがひしめく時間となった。ラジオの詳しい内容は、是非本編をご覧くださいののだが（只今編集中！）、怒涛の2時間を超える収録が終わって片付けている時、ふと新しい春まつりの楽しみ方を見つけたような気がした。もともと、春まつりをきっかけに東九条という地域を知り、一瞬でその色とりどりさに魅力を感じ引き込まれた私だったが、今年の春まつりでのラジオ収録を通して改めて、ここに集まる人たちの力を目（耳）の当たりにしたのだ。コーヒー、野菜、似顔絵に工作作り、演奏やトークなど、一見いわゆるお祭りなんだけど、注意深く耳を傾けてみるとそこには様々な世界と、それに関わる人たちの思いが広がっている。それを食べること、使うこと、聞くこと、観ることを通じて受け取っていたのか、と気がついた。コロナ禍で会えない間にぎゅっと凝縮されたそれぞれの思いが詰まった収録となった。

※ほっこりラジオはYoutubeで配信中「ほっこりラジオ 東九条」で検索してください。

トークショー「いまこそ、つながろう」

●さとう大（京都コリアン生活センターエルファ）

これまでの春まつりで会場を盛り上げてくれたのは、地域にある4つの介護施設（故郷の家、のぞみの園、エルファ、陶化デイ）の利用者さんたち。今年は、それぞれの施設の職員さんに出演いただき、2年あまりのコロナ禍の葛藤について1時間ちょっと語っていただきました。福祉現場も医療現場さながらの感染症対策の最前線にありますが、医療現場との違いはそこが「生活の場」だということです。施設内で行動制限を徹底すれば、利用者の尊厳を傷つけることになるし、利用者の心身機能まで落としてしまいます。それは、「より良い生」のあり方をめざす福祉の考え方に反するものです。一方で、目の前で新型コロナに感染され亡くなられる方がいたこと、そのときに家族の対面どころか福祉ワーカーの接触も制限されてしまったという経験も語られました。

「命を守る」ことと「尊厳ある暮らし」の両方を成り立たせるために、福祉ワーカーとして深く葛藤していることを、みなさんが率直に語ってくれました。トークショーでは、ひとりの職員として苦しみもがいている気持ちが施設を越えて分かち合われていくようでした。互いに声をかけ合うことで地域の福祉力を高めていこうとする熱い思いが響き合っているようでした。東九条の福祉のリアルを見つめながら、こんなにも生活に身近なところに、こんなにも人間の「生」の根幹に関わるところに、福祉の仕事に情熱をかけている人



たちの存在があると気づかせてもらい、本当に、本当に、胸が熱くなりました。この間も、ずっと、つながりつづけていたんですね。それを発見できたところで、さらに、一歩前に進むために、声をかけ合いたいです。

「いまこそ、つながろう！」

●川越孝男（故郷の家・京都）

好天に恵まれた2年ぶりの東九条春まつり。今回トークショーに参加させていただきました。テーマはコロナ禍での感染対策。これまで同じ施設の職員と新型コロナに関して話

をすることはたくさんありましたが、他施設の方々と話をする機会はあまりなく地域で共に高齢者福祉の仕事をしている皆さんと話ができることを楽しみにしていました。

私の働いている故郷の家では今年2月に新型コロナ感染のクラスターが発生しました。トークショーの中でもお話ししましたが、施設で陽性者がでた場合、隔離対応（居室対応）を行うこととなります。長期間居室に閉じこもりになってしまうことで心身機能の低下は著しく、入居者の中には認知症の方もいて、なぜ自分が部屋から出ることができないのか理解ができない場合があります。介護職員も感染拡大防止の為に防護服を着用しており、普段の生活とはかけ離れた状況となり、認知症を進めてしまい兼ねません。入居者の生活を守るためにはどのように支援していけばよいのか？現場で働く職員たちが悩みながら対応していく中で、今回のトークショーではコロナと上手に付き合っていくことの前向きな話し合いができました。まだまだ油断はできない状況が続いていますが少しずつ以前の生活を取り戻し、東九条地域高齢者の皆さんの笑顔が絶えずあることを願います。

●伊原知沙（総合福祉施設東九条のぞみの園）

「新型コロナ感染症」がテーマと聞き当初は様々な不安がありました。「施設でコロナのクラスターがあったと知ると皆さんが恐怖感を抱かれるのではないか。」「クラスターで職員一丸となって対応したことに間違っていた点はなかっただろうか。」と、そのような気持ちで打ち合わせに臨みました。しかし施設だけでなく在宅でも同じような悩みを持ちながら対応していることが分かり「私だけじゃなかった」と安心したのを覚えています。

今私が強く感じていることが「コロナを怖がり過ぎないで」ということです。軽視するのではなく、感染対策を実施した上でどんな風にそれぞれの生活を楽しんで頂けるか、ということが施設やお家で過ごされる皆様への、私たちの頑張りどころだと思います。私たちが感染対策への知識をしっかり持ち、状況に応じた対応をする。その対応の選択肢を増やすことで、制限が多いこのご時世でも今だからこそできる心豊かな暮らしに繋げていけるのではないのでしょうか。

今回トークショーでステージから見ていると、「他人事じゃない」という面持ちの方がたくさんおられ、会場が一体感を持っていたように感じました。一つの事業所で対応しきれないことは、他の事業所との助け合いで一人ひとりのご利用者を支え合うことができるのだと、私自身、クラスターをきっかけに学ぶことができました。「コロナ」に怯えることなく皆で支えていける地域作りをこれからも一緒に頑張りたいと思います。

40才からのギター教室

●渡邊琢（日本自立生活センター）

40才に入ってから、以前は恥ずかしくて尻込みしていたことにも、いろいろチャレンジするようになった。クラシックギターは40才のとき独学ではじめた。でも人前で演奏するなんて、ぼくにとっては虹の彼方のことだった。ふとしたきっかけで、希望の家の宇山さんから、娘のこなさんと一緒に演奏してみませんか、というお話をもらった。年甲斐もなく、ビビってしまった。人前で演奏するなんて…ブルブル、ガクガク！一瞬で音楽トラウマ発動ですよ。とは思ったものの、せっかくの機会、やらせてもらおうと思った。同僚の廣川淳平さん（40代前半）も、クラシックギターに触るのはほぼ初めてだけど、チャレンジしたい気持ちうずうず。一緒に演奏することになった。ドキドキの40代の二人。でもお互いにドキドキなので、お互いに心強かった。5才の頃からギターを習っているこなさんの安定感が、ぼくらの心にも安心感をもたらしてくれた。最初の演奏の機会は、JCILが企画した2022年3月の「福祉まつり」だった。爆発しそうになったけど、後で動画を見ると、落ち着いているように見えた。見た目と心の中は違うようだ。すぐに次の機会がきた。4月23日の「東九条春まつり」だ。今回は「虹の彼方」、「春が来た」、「サウンドオブサイレンス」の三曲を新たにギター三重奏で演奏した。それからもう一曲、JCILの小泉浩子さんも何十年ぶりかでリコーダーにチャレンジ。リコーダーとギターのアンサンブルで「エーデルワイス」を演奏した。ひやひやドキドキだったけど、みんなが励まし暖かく見守ってくれた。たくさんの拍手をもらえた。嬉しかった。



チャレンジは続きます。どうもありがとうございます！

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分